

昔の木造は 涼しかった？



雨端空間（久護家住宅）



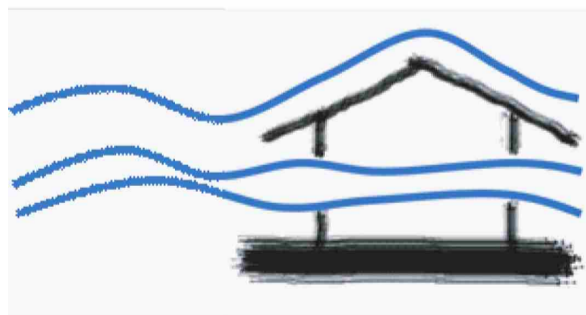
現在の那覇の市街地

沖縄では、戦前全ての建築は木造でした。

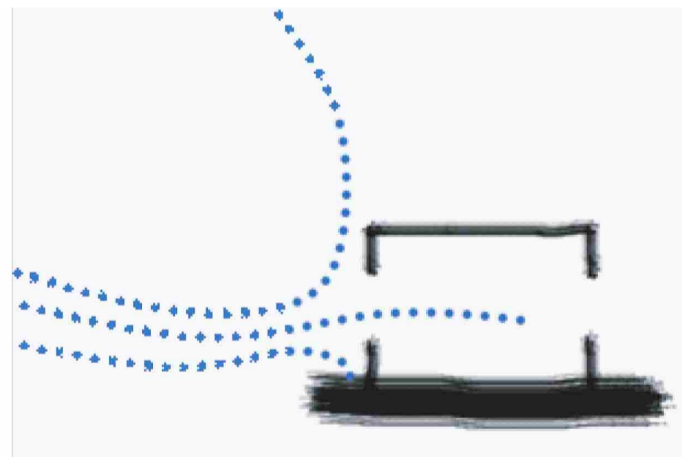
戦後米軍からの技術移転、台風、白蟻等による戦災応急仮設規格住宅の多大なる被害により、現在においてはそのほとんどの住宅がRC造を中心とした非木造となりました。

昔の木造が涼しかったと言われる点は、この放射温度がコンクリートに比べて夏は涼しく、冬は暖かいからとも言われます。

また軒を出した住宅は、風を取り込みやすい形態をしていて軒や庇のない窓からは風が取り込みにくいのです。コンクリート造の住宅でも、軒や庇を出したり、放射温度を下げるために、コンクリートの壁が熱くならないような工夫や室内側の内装を変えるだけで、過ごしやすい快適な家づくりができます。



軒を張り出した住宅では、自然の風を取り込みやすい。



軒のない住宅では、室内へ十分な風を取り込むことができない。

壁や屋根、天井の
温度をなるべく
気温に近づける

コンクリートは比熱が大きく、温度変化が緩やかなため、蓄熱や輻射熱の影響で、夏は夜遅くまで暑く感じ冬は時には昼間でも寒く感じられます。
室内の壁材料やその張り方を工夫するなどによって、この輻射熱を防ぐことも有効です。

室内では人体そのものや人間の生活行為（炊事、洗濯、入浴等）あるいは生活に関わる家電（テレビ、各種調理器具、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、照明、通信機器、コンピューター等）により熱や水蒸気が発生します。これらの熱と湿気を速やかに室内から排出することが、住まいの快適性の向上と共に住宅の運用エネルギーの省エネにも役立ちます。そのためには、速い風速を活用した速やかな排熱が重要です。

通風、換気に
配慮する

結露対策を行い
木部の腐朽
を防ぐ

結露を防ぐには多孔質の木材や土などを用いることが考えられますが、そもそもコンクリートの結露を完全に防ぐことは不可能なので、壁の中や床下などの空間でなるべく空気が澱まないようにする、すなわち万一結露しても乾くようにする工夫が必要です。